

受難節第一主日・聖ヶ丘教会主日礼拝

2020年3月1日

聖書 ルカによる福音書 22章 31～34節

説教「あなたのために祈った」 藤井清邦牧師

「イエスは言われた。『シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。』

するとシモンは、『主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております』と言った。

イエスは言われた。『ペトロ、言うておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう。』
ルカ 22章 31-34節

◆教会の祈り

主なる神よ、あなたは御旨によって天地を創造し、聖なる御腕の力によって、造られた世界とそこに生きるすべての命を保ち支えてくださいます。あなたはわたしたちに、御言葉を通して、あなたが生ける神であり、わたしたちの救い主であることを示してくださることのゆえに深く感謝いたします。

いつくみ深い父よ、わたしたちはすぐる水曜日に、「灰の水曜日」を迎え、レントの期間を歩み始めました。そして今日、受難節第一の主の日の朝を迎えました。わたしたちが塵よりなり、塵に帰っていくものであることを深く覚えさせると共に、聖霊によってわたしたちを真心からの悔い改めと真実な信仰に生きる者としてくださいますように、切に祈ります。

父である神、わたしたちの世界は、新型コロナウイルスという、未だかつて経験したことのない「未知の病」の感染が拡大し、り患した多くの人々、高齢者や子どもたち、あらゆる場におかれた働き人まで、多くの人々が厳しい境遇に置かれています。医療者や責任ある立場にある人々も、あなたの助けと必要としています。どうかそれらすべての人々を支え、命を守り、必要な助けを与えてください。

恵み深い神よ、私たちは、今日のこの主の日、この教会にいつものように、私たちの兄弟姉妹と共に集うことが出来ませんでした。この場を共にすることができない、

わたしたちの兄弟姉妹の一人一人を、あなたが支え、恵みによって力づけてください。また、礼拝に困難が生じ、あなたの愛しておられる兄弟姉妹の信仰生活に困難があるこの時、どうか、神がわたしの味方であり、主は「いつ如何なる時」にも「わたしたちと共にいてくださる」ことのゆえに、わたしたちを励まし、教会の信仰を強めてください。あなたの子らがどこにいても、神様の愛によって一つに結び合わせてください。いつものように礼拝を捧げる日が、一日も早く訪れますように切に祈ります。わたしたちに将来と希望を与えてくださる神よ

病の床にある者、愛する人を失った方々、深い傷と痛みをその身に負った人々、あなたの助けを求めるすべての人と共にいてください。わたしたちが無限の虚しさと悲しみの中に放り出されたように思う時、あなたの御手が私たちを捕らえ、わたしたちの人生とその命が、神様の御手の中に「なお、あり続けている」ことに、そしてあなたがわたしたちの命を支え、明日を創造して下さることに気づかせてください。

いま、わたしたちはあなたの御言葉を待ち望み、聖霊の導きを祈ります。福音の御言葉を通して、わたしたちを新しい力と希望に満たして下さいますように。

この祈りを、わたしたちの主、イエスキリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

◆説教

今日の礼拝では、ルカによる福音書の 22章 31節から 34節の御言葉が開かれています。この御言葉は、主が最後の晩餐を弟子たちと共にされた後、弟子のシモンに語られた御言葉です。主はシモンに何とお語りになったのでしょうか。このようにあります。

「イエスは言われた。『シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。』

ここに呼びかけられているシモンとは、34節で主イエス様から「ペトロ」と呼びかけられていますけれども、弟子のシモン・ペトロのことです。ルカ福音書の 5章を見ると、このシモン・ペトロのことが記されています。シモンは、ゲネサレト湖畔で主イエス様から「恐れることはない、今からのち、あなたは人間をとる漁師になる」と、主イエス様に従って生きるようにと召し出された人物です。そのときペトロは、聖書を見ますと「すべてを捨ててイエス

様に従った」と記されています。すべてを捨てて、つまり何もかもイエス様に委ねて生き始めた人物です。そして実際、シモンは主イエス様に従って生きてきたのです。

ところが、そのようなシモン・ペトロに、主イエス様は「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。」とお語りになります。つまり、ペトロが試みられ、麦がふるいの上でふるわれるような、激しい信仰の試みを体験することがここに告げられています。ペトロは自分の信じてきたイエス様への信仰が、グラグラと揺さぶられ、今まであると思っていた自分の信仰が音を立てて崩れていくような経験をしました。具体的には、ペトロは主イエス様が捕らえられ苦しみを受けて十字架にかけられていくという出来事の中で、ペトロをみた人々から「この人も一緒にいた」「お前もあの連中の仲間だ」「確かにこの人も一緒だった」と訴える声に取り囲まれ、三度主イエス様を否んでいきます。このペトロの試みというのは、ただ自分の身に危険を感じたというだけのことではありません。ペトロは目の前に起こっている問いと、出来事の中で、イエス様への信仰がグラグラと揺れ動き、もはや自分の力でイエス様に従っていくことが出来ないような経験をしました。

わたしたちも時として、大きな試みの中で神様の前に立たされるということがあります。いままであると思っていたものが奪われ、安心が失われ、命が危険にさらされていく経験をします。しかし、問題はそれだけではありません。そのような出来事の中で、主イエス様がわたしたちの救い主であり、わたしたちと確かに共にいて下さるということが判らなくなったり、信仰を貫くことができないような経験をさせられるのです。救い主の姿をはっきりと見、その方を見つめて生きることが出来ない経験をいたします。

けれども、そのようなシモン・ペトロに、主イエス様は「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。」とお語りくださいました。今日の聖書の箇所には、新共同訳聖書では「ペトロの離反を予告する」という見出しが付けられています。たしかにペトロが激しい試みにあい、主イエス様を裏切っていくということが記されています。しかし、ルカ福音書が最も語ろうとしたのは、単にペトロの裏切りではありません。離反の告知に終わる

ものではありません。22章32節、麦のように振られるペトロに「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。」と語って下さる主がおられるのです。ペトロは、自分の決意や熱心さ、情熱でイエス様への信仰を貫き通すことは出来ませんでした。けれども、ペトロは「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。」と、執り成して祈って下さるキリストの祈りに支えられているのです。

わたしたちも、わたしたちの教会も、このキリストのとりなしに支えられています。どんなに打ちのめされても、どんなに倒れても、それがすべてではありません。「あなたのために祈った」と仰せになる主の御心は、ペトロに向けられており、今ここに生きるわたしたち一人一人に、確かに向けられているのです。

このキリストのとりなしは、むなしい慰めではありません。ペトロは主イエス様を三度裏切り、そして外に出て行って激しく泣いたとありますが、主はペトロを再び立ち上がらせてくださいました。復活のキリストはペトロと出会ってください、そしてペトロを再びご自分の弟子として使命を与えて、用いてくださったのです。主イエス様は「あなたのために祈った」と言われた後、ご自分を裏切り、見捨てて逃げ去っていくペトロの弱さをよくご存じの上で、それでも「あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」と仰せになりました。

キリストの眼差しは、ペトロの失敗や躓きではなく、立ち直って兄弟たちを力づけるものとなるという将来へと向けられています。キリストは将来をご覧になり、新しい使命を御与えになります。ペトロは33節で「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」といいましたが、ペトロはその覚悟と熱心さでキリストに従い通すことは出来ませんでした。最後まで変わることをのなかったもの、ペトロの再生をもたらしたものは何でしょうか？それはキリストがペトロのために祈って下さったという事であり、キリストの愛は最後まで少しも変わることはなかったということでもあります。

わたしたちもまた、このキリストのとりなしの祈りに支えられ、キリストの愛に守られて、今この時を過ごすものでありたいと思います。そのために主が恵みと慰めを豊かに注いでくださるよう、共に祈り求めましょう。